

# 管機連 Daily News

2021年4月30日(金)

## 《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

### ◆鉄鋼などの脱炭素「移行債」で後押し 政府が市場整備へ

・脱炭素への移行を金融で後押しするしくみが動き出す。政府は環境債に次ぐ資金調達手段として、環境対策を強める企業を支援する「移行債」の市場整備に乗り出す。企業の取り組みを評価・認定するしくみをつくり、資金調達手段を広げるとともに投資家も資金を出しやすく。移行債と移行融資の市場規模は世界で1兆ドル(約110兆円)に膨らむとの予測も。

### ◆地域間送電網増強、最大4.8兆円 広域機関が投資額試算

・電力広域的運営推進機関(広域機関)は28日、地域間送電網(連系線)の増強案をまとめた。洋上風力発電が4500万キロワット導入されるケースでは投資額を最大4.8兆円と見積もった。再生可能エネルギーの普及には電力を大消費地に送る送電網の増強が欠かせない。ルート of 優先度を見極め、必要性が高い地域から整備に着手する。

### ◆3月の小売販売5.2%増、4カ月ぶりプラス

・経済産業省が28日発表した3月の商業動態統計速報によると、小売業販売額は前年同月比5.2%増の13兆4980億円だった。増加は4カ月ぶり。コンビニエンスストアや百貨店が前年同月を上回った。経産省は小売業販売の基調判断を前月の「横ばい傾向」から「持ち直しの動きがみられる」に引き上げた。

## 《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

### ◆2020年度の住宅着工、81.2万戸 10年ぶりの低水準

・国土交通省は4月28日、2020年度の新設住宅着工戸数を発表。前年度比8.1%減の81万2164戸で2年度連続の減少。昨年5月の緊急事態宣言解除後は受注動向に持ち直しの傾向がみられたものの、過去10年間で最も低い水準。持家は前年度比7.1%減の26万3097戸で2年連続の減少。1961年(昭和36年)の26万335戸以来の低水準。

### ◆都が「スマートメーター」導入 専用アプリで水道の使用状況チェック

・東京都は2024年度までに水道の使用量を自動で検針しデータ送信が可能な「スマートメーター」を都内の14地域に先行導入することを発表。霞が関周辺や立川市の一部の一般住宅、オフィスなどに、あわせて12万6,000個を取り入れる計画。検針が不要になり利用者はスマホの専用アプリを通して使用状況の確認や支払いなどができるようになる。

### ◆4月から改正石綿規制関連法施行 戸建住宅調査者養成が急務

・解体工事などでの石綿(アスベスト)による健康被害の防止を目指す石綿障害予防規則と大気汚染防止法の石綿規制関連法が一部を除き4月1日施行された。「建築物石綿含有建材調査者」を定め 一戸建て住宅については新設する「一戸建て建築物石綿含有建材調査者」による調査が、2年後の2023年10月の届出から義務化される。

## 《 注目商品 》

### ■LIXIL、TOSTEMブランドから1日でリフォーム工事ができる「リフォーム網戸」

・新品に簡単・まるごとの交換が可能なので、見た目が綺麗になるだけでなく、開閉操作もスムーズに。破れたり、動きにくくなった網戸の交換はもちろん、今まで網戸がなかった窓やドアにも取付け可能。使い勝手に合わせて、網やフレーム、中棧・引手の有無など選択が可能。



### ■パナソニック、「感熱・トラッキングお知らせコンセント」

・コンセントやコンセントに差し込むプラグの金属接続部の異常過熱による電気火災を未然に防ぐ、感熱・トラッキングお知らせコンセントを発売。コンセントとプラグの金属接続部の異常な温度上昇をコンセント内部の温度センサが検知し、音とランプでお知らせした上で電気を自動遮断する。



### ■文化シャッター、スマホで開閉可能なガレージシャッター

・ワイド開口に対応した電動式ガレージシャッターをIoT化。ワイヤレス集中制御システム「セレクト2」に対応し、スマートフォンのアプリにより屋内外からシャッターの開閉操作ができる。外出先で開閉状態の把握も可能。Googleアシスタントと連携し、音声認識による開閉も可能。

